

## 平成26年黒石市教育委員会第12回定例会会議録

日時及び場所 平成26年12月22日(月)午後2時 黒石市産業会館 小会議室

会議出席委員 委員長 村上良子  
1番 阿保淳士(教育長)  
2番 千葉小夜子  
4番 中村康

会議欠席委員 3番 津軽承公

### 説明のために出席した者の職氏名

教育部長 奈良岡 和 保  
学校教育課長 山谷 博文  
社会教育課長 駒井 昭 雄  
文化スポーツ課長 成田 秀 範  
学校教育課長補佐 西塚 啓  
学校教育課総務係長 中田 智子(書記)

### 会議に付した案件

- 第1 会議録の承認
- 第2 会期の決定
- 第3 会議録署名委員の指名
- 第4 教育長等の報告
- 第5 報告第1号 臨時代理した事務の報告について  
(処分第1号 黒石市立黒石幼稚園の廃止に関する方針の一部変更について)
- 第6 議案第88号 黒石市教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書の作成について

### 会 議 の 顛 末

開会宣告(午後2時)

#### 第1 会議録の承認

平成26年黒石市教育委員会第11回定例会の会議録については、全員異議なく、原文を承認する。

#### 第2 会期の決定

会期については、平成26年12月22日の1日とすることで、委員全員異議なく、決定する。

### 第3 会議録署名委員の指名

村上委員長が「村上良子委員長」と「阿保淳士委員」を指名する。

### 第4 教育長等の報告

- 1 平成26年黒石市議会第4回定例会に提出した教育に関する事務の議案について  
平成26年第4回黒石市議会定例会に提出した教育に関する事務の議案については、平成26年黒石市教育委員会第11回定例会で協議したとおり、可決された。
- 2 平成26年黒石市議会第4回定例会での教育関係に係る一般質問について
  - (1) 学校教育課関係質問
    - ① 子供の未来と教育について（自民・公明クラブ 今井敬議員）
      - Q1 学校適正配置（統合）について方針を再検討して変更した内容は何か。  
A1 まず、六郷小学校・上十川小学校の統合後の使用校舎を六郷中学校から六郷小学校に変更したほか、六郷小学区の中学進学先が中郷中学校から黒石中学校へ、黒石小学校・中郷小学校・北陽小学校の統合後の使用校舎としていた中郷小学校は、校舎の老朽化に加え、スクールバスの乗り入れが困難であるなどの問題があることから、平成32年度に移転新築による統合としたいと考えている。併せて、給食実施が平成30年度では困難であるため、黒石東小学校・浅瀬石小学校・追子野木小学校の統合も平成30年度から平成32年度に変更したいと考えている。
      - Q2 本年度、住民説明会等は何回行われたか。その内容は。  
A2 4月4日から18日にかけて追子野木、浅瀬石、東、山形、牡丹平の各地区協議会長に対し、他地区協議会との打合せ進捗状況等についての説明を計5回行った。また、10月21日から27日にかけて中郷小学校PTA、東英中学校PTA、六郷地区振興協議会及びPTAに対し、9月12日の議員全員協議会で説明した「小・中学校適正配置の方針の一部見直し案」についての説明会を計3回実施している。
      - Q3 統合によるメリット・デメリットは何か。  
A3 メリットとして、複式学級の解消、多様な考え方に触れる機会が多くなり集団生活を通して学ぶことが増える、学級数増に伴う教職員定数増により教育活動の充実や教職員の負担軽減を図れる、管理運営費や維持補修費の削減などが挙げられる。デメリットとしては、学区が広がり通学距離や通学時間が増大するなどである。
      - Q4 黒石幼稚園について、存続を願う会から「園児募集停止と閉園方針」の白紙撤回、再検討を求める陳情が出されたが、教育委員会としての考えに変わりはあるか。  
A4 教育委員会では、平成17年度に廃園や民間移譲の話が持ち上がって以降、さらには平成21年度に「5年をめどに再度協議する」と決定して以降、これまで毎年、減り続ける園児数の推移を見守りながらも、何とか存続させたいとの思いでいた。しかしながら、今年4月時点での3歳児の入園者が、わずか2人しかいなかったという事実を、重く受け止めた。このままでは集団としての教育活動が極めて困難であること、また、市の厳しい財政状況をも考慮し、教育委員会としても苦渋の決断をしたところである。  
これは、これからの黒石幼稚園の運営を教育的視点や財政的視点などから総合的に勘案

しての決断であり、今後も平成29年3月末で閉園する方針に変わりはない。

Q5 黒石幼稚園の閉園について「保護者へ事前に説明や協議がなかった」と聞いているが、今までの経緯はどうなっているのか。

A5 保護者説明会の際に、保護者の方々から「4月の入園前に説明をすべきではなかったか」との声を聞き、事前の説明不足は否めないことを感じており、大変申し訳なく思っている。これまでの黒石幼稚園の経緯や、この5年間の教育委員会での協議過程について、保護者の皆様へ情報をお知らせできなかったことについて、重く受け止めている。当然のことながら、現在、入園している子どもたちが卒園するまでは黒石幼稚園を存続させ、できる限りの教育環境を維持していくこととしている。

教育委員会としては、3年間の猶予期間を置いての平成29年3月末での閉園方針を公表したところであるため、何卒ご理解をいただきたい。

Q6 黒石幼稚園の閉園で若い世代の子育て世帯の転出につながらないか。

A6 黒石幼稚園が閉園しても、選択肢がなくなるわけではない。認定こども園も増えることが予想されることから、子育て世帯の転出にはつながらないと考えている。

## (2) 指導課関係質問

### ① 子供の未来と教育について（自民・公明クラブ 今井敬議員）

Q1 市長の思いである小・中一貫教育について教育委員会の考えを聞きたい。

A1 小・中一貫教育には、小学校と中学校を同じ校舎として進める施設一体型をはじめ、同一学区の小・中学校が教育課程や教育目標を共有し、児童生徒・教職員の交流を密にしていく連携型など、さまざまな形態がある。小・中一貫教育の取り組みが広がれば、中学校になじめず不登校やいじめが増える「中1ギャップ」の緩和が図られ、義務教育の質の向上が期待できる。

文部科学省では、小・中一貫教育の早期制度化を検討しているが、教育委員会としては、現在行われている同一学区における小・中学校の連携教育を生かし、本市に合った小・中一貫教育へ結びつけていけるよう調査・研究を進めるとともに、先進校等の情報収集に努めていきたい。

### ② 人材育成について（自民・公明クラブ 大溝雅昭議員）

Q1 市の児童生徒や若者の海外派遣等の今までの取り組みを聞きたい。

A1 黒石市とオーストラリア・メルボルンにあるチズム校との中学生、高校生の相互交流は、平成6年度から平成17年度までの12年間実施されていた。それ以降は、チズム校の意向を踏まえながら、平成20年度まで派遣団の受け入れ事業を行ってきた。平成21年度以降は、新型インフルエンザの流行や東日本大震災、チズム校側の予算上の都合等により実施されていない。

Q2 児童生徒の海外派遣や交流事業を復活させてほしいと考えているが、今後の予定は。

A2 国際社会に貢献できるような人材の育成のために、国際理解教育の推進に努めるとともに、海外派遣団の受け入れ事業については、交流相手であるチズム校の意向、あるいは市の財政状況等を踏まえながら、今後検討していきたい。

## (3) 社会教育課関係質問

### ① 人材育成について（自民・公明クラブ 大溝雅昭議員）

Q1 国際人育成の支援等について、国や他団体で行っている国際人育成事業に市からの支援は出来ないか。

A1 公益社団法人国際青少年研修協会が行う海外派遣事業については、ホームステイや英語研修などの体験プログラムを提供しているとのことである。

教育委員会としては、国際理解教育や国際交流を促す一つ的手段として、青少年のグローバルな視野を持った人材の育成は必要であると認識している。今後は、県や関係機関と連絡・調整を図り情報収集や情報提供に努めるとともに、国際人育成の海外派遣事業に対する助成についても検討していく。

② 地区協議会のあり方について（自民・公明クラブ 大溝雅昭議員）

Q 1 自主的な活動を行うためのまちづくり委員会等の設置について、市長は、地区協議会に役割を果たさせるために、どのような方法を考えているのか。

A 1 本市における地域活動は、1小学校区1公民館をコミュニティエリアと捉え、黒石ならではの独自のコミュニティ活動を展開してきたことは、他の自治体に誇れる自主的活動であり、その中心となっているのが各地区協議会である。その地区協議会がさらに活動を活性化し、地域の力を向上させることが、「小さな行政」「黒石市のまちづくり」を推進する上で大変重要なことと考えている。8月11日には地区協議会長との意見交換会を行い、どのようなことが地区協議会で出来るのか、また、それぞれの地区協議会の課題解決策を提出してもらいたい。それらの解答を基にして、これまで地区協議会と行政が「協働」の理念のもと連携してきた経緯を踏まえて、更に前進させ、どのようなものが地区で可能なかを明確にした上で、今後は各種団体との連携も図りながら、もう一度地区協議会に出向き意見交換を行うことによって、行政でどう支援できるのかを検討していきたい。

Q 2 地区協議会の中にまちづくり委員会を設けるなどして活性化を図ってはどうか。

A 2 地区協議会の活性化のためには、まちづくり委員会の設置というのも一つの方法だと思うが、地区協議会組織の強化と地域の教育力を高める事が課題であり、地域の活性化を図るため地区協議会機能を活かしていくことが重要と考えている。教育委員会としては、地区協議会及び各種団体の若いリーダー等を対象に、地域活動の専門家を講師に招くなどして研修会や学習会を開催し、広く人材育成と地域力の向上を図っていく。

Q 3 地区協議会の地域力を高めるためには、組織の見直しや人材育成を図らねばならないが、それらに係る財源が必要にならないか。

A 3 活動に対する財源に関しては、県及び関係する機関や企業においてまちづくり活性化事業に対する補助金制度を設けているところがある。上十川地区振興協議会は、市町村振興会の地域づくりソフト事業や公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団のプロジェクト支援事業の助成金で獅子舞のルーツやハイキングのマップなど地域振興のために活用している。また、六郷地区振興協議会は、県の公民館機能活性化事業補助の助成を得て幻の県道事業の強化のため活用している。

このような財源の確保は、地区協議会の自主的活動を促す上で重要であると考えことから、各種補助制度や助成金制度の情報収集をするとともに、上手く活用できるよう情報提供をしていく。

(4) 文化スポーツ課関係質問

① スポーツイベントや体験を生かした観光について（自民・公明クラブ 大溝雅昭議員）

Q 1 これまでの取り組みと現状について聞きたい。

A 1 現在把握している山形地区や黒森山を利用したスポーツイベントは、主なもので、6月に開催された「こけし駅伝大会」に240人、「アドベンチャーフェスタ2014」のラウンド1としてバイクとランを組み合わせた競技の「虹の湖デュアスロン春 in 黒石」に43人、ラウンド2として「黒森マウンテンバイク夏 in 黒石」に45人、ラウンド3として秋に山を走る「マウンテン黒森トレールラン in 黒石」に36人の参加者があったと伺

っている。

Q 2 黒石の里山で現在開催されているスポーツのほかに、トライアスロンやマラソンなども可能性があることから、それらをイベント化できないか。

A 2 市内には恵まれた豊かな自然があり、さまざまなスポーツを実施することが可能と思われる。特種性がある、別名鉄人レースともいわれるトライアスロンやマラソン等は、専門的知識のある方々から競技内容やコース等について情報収集をしていきたい。

### 3 教育長に委任された事項に係る教育委員会告示について（学校教育課）

平成26年12月11日、黒石市教育委員会告示第13号で平成27年度黒石市立黒石幼稚園園児募集要項の一部を変更する告示を公示したので、別紙のとおり報告する。

平成27年度黒石市立黒石幼稚園園児募集要項の一部を変更する告示

第1項 申込み資格に次のように加える。

3歳児 平成23年4月2日～平成24年4月1日生まれの子

第2項 願書受付期間中「平成26年11月30日」を「平成27年1月30日」に改める。

第3項 募集人員に次のように加える。

3歳児 19名

第4項第1号中「11月末日時点」を「平成27年1月末日時点」に改める。

#### 附 則

この告示は、公示の日から施行する。

### 第5 報告第1号 臨時代理した事務の報告について（処分第1号 黒石市立黒石幼稚園の廃止に関する方針の一部変更について）

教育部長が資料に基づき説明し、全員異議なく、本件を了承する。

### 第6 議案第88号 黒石市教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書の作成について

教育部長が資料に基づき説明し、審議に入る。

村上委員長 事務点検評価の外部評価を受けて各課長から今後の方向性や重点的に取り組もうとしている事業、感想等を御説明願えればと思いますのでお願いします。

学校教育課長 学校教育課の部分につきましては、特に大きな部分として小中学校の適正配置に関する部分があります。地区住民の保護者の意見を聞き、理解を図りながら進めていただきたいと外部評価欄にもございました。そして、早期に枠組みを決定することが望まれると書いてありました。学校教育課としても、今後の方向性としては「改善」という形になりますが、保護者、地区住民等への理解を高めながら進めていきたいというふうに考えております。他の項目につきましては、成果や外部評価で「継続」が多いのですが、委員の意見については、子ども達が安全な学校生活を送れるように、そして安全な学習環境を保っていただきたいというようなことでありました。子どもたちの学習環境を下げ

ないようにそして計画的に事業を実施していきたいというふうに考えております。以上です。

指導課長 指導課関係では、資料分析、調査、研究をもう少しした方がいいのではないかと外部評価を受けました。そういう評価結果を受けながら、もう少し具体的な、根拠になるものが明確でない曖昧だとの御指摘が多かったように認識しております。そういった部分ではもう少し外部評価者が分かるような、専門家でなくても誰から見ても分かるような表現で示そうということの確認をしました。それから、「教科指導の充実」という点では「わかる授業」というところの指摘がありました。大きなところでは私も強く印象に残っているのですが、「わかる授業」よりも誰からも分かる表現とすれば、「わかる・できた」の方がいいのではないかとのご指摘がありましたが、この段階では、「わかる授業」というのに全てが集約されているので、今のところ見直すつもりはございません。しかしながら、最終的には「楽しい」とか、誰がみてもこういうところを黒石市教育委員会は目指しているという表現の検討に入っていきたい、アドバイスを生かしていきたいものだなと考えております。いずれにしても、教育委員会の意欲向上、技術の向上を最終目標としながら御指摘いただいたところは、前向きに検討していきたいと、今、考えているところです。以上です。

社会教育課長 社会教育課に関しては、まずひとつは「家庭教育」についてですが、平成24年度から実施した重点事業の中のひとつとして、引き続き小学校、中学校、PTA又は公民館も一緒になって学習の機会を提供し継続していくということで検討しております。次に「地域の教育力」。地区協議会等各種団体の組織力がかなり弱ってきているということから、各種団体の若手のリーダーの育成を考えていこうということで、社会教育団体活動状況の情報収集実態を把握して助言を行うということを踏まえて、情報学習会、検討会、研修会等を実施していくということであります。その後、地区組織力の形で公民館を拠点としたリーダーの育成。そして、公民館の職員の進出向上を図っていくということで、目標を決めて継続していくということになっております。中身については、大まかな改革案を考えております。継続しながらいいほうに改善していくということで考えております。以上です。

文化スポーツ課長 スポーツ関係は社会教育課、文化財関係は文化課とありますが、平成26年度から新しい課ができたということで、文化スポーツ課で担当しているものであります。まず、スポーツ関係についてですが、大きく分けて二つになります。まず、競技スポーツ関係については、若手の選手育成のため、最も大事なものは指導者を増やしていかないといけないのではないかとことです。このことは、市の体育協会とも連携しながら取り組んでいきたいと考えております。次に、レクスポ関係については、市民が誰でも気軽に参加しやすいように体験できる場を増やしていこうと考えております。普段なかなか見られないものを見ながらウォーキングをするなど、新たなものも考えております。あと、文化財関係では、旧松の湯と金平成園の工事が終わりますと、本来の文化財の係の仕事ができると思っておりますので、文化財について市民等に周知を図り文化的な向上に努めて参りたいと考えております。これについては、市の観光面にもつながっていくのではないかと考えております。あとは、黒石市市民文化祭や少年少女合唱団等につきまして、これまで以上に支援していきたいと考えております。これは、補助金の支援だけではなくなかなか難しい面があるにしても、準備の段階とか、マンパワーで対応していきたいと考えております。なお、このスポーツ関係とか文化関係で努力されている方々達はこれまで通りスポーツ賞等文化賞等の表彰も継続して参りたいと考えております。以上であります。

村上委員長 各課長より丁寧なあいさつがありました。では、委員の皆さん、ご質問等ございませんでしょうか。

千葉委員 これは平成25年度の総括ということですよ。

教育部長 そうです。これは平成25年度の事務事業について点検評価を行ったものでございます。今回こうして事務を点検し評価を受けて、今度平成27年度に生かしていこうとするものでございます。

村上委員長 平成26年度の事務評価はこれから出てくるので、時間的なずれを感じて分かりにくいですね。

中村委員 芸術文化活動の推進ということで、合唱に関する活動をたくさん支援していただいて、活動の場もあって、なかなかよろしいと思っているのですが、かたや演劇がなくなってしまって、その後前向きに対処しますということではあったと記憶しておりましたが、その辺は今後どうしていかれるのかというのが、少し頭の中に入れたいと思っています。それと、学校教育課については、統廃合についての要は、進捗状況といいますか、情報提供のあり方だと思います。社会教育委員の方とお話しした時に進捗状況をもっと知りたいということを強く要望されていたので、その辺、できればある程度期間を決めて段階的にうまく伝えていくように考えていけば、もっとスムーズに進んでいくのではないかと感じました。以上です。

文化スポーツ課長 少しご紹介したいと思ったのは、追子野木の以前、演劇の指導をされていた先生から、第1回目から活動していたときのポスターを実は寄附していただいております。文化会館が再開したときにでも皆さんの目にふれるようなところで紹介していければということで、一時的にお預かりしております。どうしても活動の場がないとか、少子化という問題もありますので、どういう形でやっていけばいいのか今後課題になっていくと思っております。

中村委員 ありがとうございます。文化会館だけでなく、松の湯等の施設やホームページも活用して早めに手を打っていただきたいと思います。

学校教育課長 中村委員からの御指摘にあるように、社会教育委員の話し合いの中でもっと情報を出してほしいという話がありました。私たちもそれを受けて、できるだけ情報を渡していきたいと考えております。まず、早期の枠組みの決定を望まれるということでございますので、それに向けて活動していきます。それで、枠組みが出来れば、動きも自然と出されていけると考えております。以上です。

村上委員長 外部評価に対して、今後の方向性は、具体的な方向性をもっと見えるような書き方の工夫が必要ではないか、今後の検討材料ではないかと思っております。外部評価と方向性を比べたときに少し温度差を感じる気がしますが。外部評価で低めの評価がなされた時には、今後の方向性は特に詳しく、慎重に、意欲が感じられるような表現をということで心がけたらよいのではないかと思います。次回の検討をお願いいたします。

以上、全員異議なく、原案を可決する。

公開審議終了（午後3時）

黒石市教育委員会会議規則（平成25年黒石市教育委員会規則第1号。以下「規則」という。）第20条及び第21条の規定に基づき作成した平成26年黒石市教育委員会第12回定例会の会議録（秘密会を除く。）について、規則第22条の規定による承認を受けたので、規則第23条の規定に基づき、ここに署名する。

平成27年1月26日

黒石市教育委員長 \_\_\_\_\_

黒石市教育委員 \_\_\_\_\_